



『とうきょう すくわくプログラム』
をはじめとする乳幼児期の子育ちを
支える東京都の取組について



東京都 子供政策連携室長

田中 愛子

チルドレンファーストの 社会の実現に向けて

チルドレンファーストの社会の実現

「2050東京戦略」

戦略01子供（Children）
2050年代のビジョン
「全ての子供の笑顔を育み、チルドレンファーストの社会へ」



東京都こども基本条例

「子どもの権利条約」の精神にのっとり、子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先にするという基本理念を明確化

子供の安全安心、遊び場、居場所、学び、意見表明、参加、権利擁護等、多岐にわたる子供政策の基本的な視点を一元的に規定



こども未来アクション

子供目線で捉え直した政策の「現在地」と、子供との対話を通じた「継続的なバージョンアップの指針」



連携

法定計画

東京都子供・若者計画

東京都子供・子育て支援
総合計画

⋮

※ 「こども未来アクション」と、「『叶えたい』を支えたい アクションプラン2026」、
「東京都子供・若者計画」及び「東京都子供・子育て支援総合計画」を合わせて、
「こども基本法」第10条を勘案した東京都のこども計画に位置付ける

子供の意見やエビデンスに基づく子供政策の推進

子供政策の基本スタンス

子供を客体でなく主体として捉え、生まれてから幼児期、学童期、
青年期など、ステージを通じて一貫してサポートし、誰一人取り残すことなく、
全ての子供たちの可能性を大切に育んでいく



子供の意見やエビデンスに基づき、子供の実情や抱える
課題を的確に把握し、子供に寄り添った子供のための
実効性ある政策を練り上げ、機動的に展開していく



政策展開のアプローチ

✓ 都政の政策全般を
「子供目線」で捉え直す



中高生 政策決定
参画プロジェクト



子供の居場所
におけるヒアリング

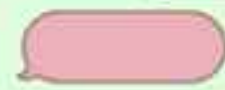


こども都庁モニター

✓ 多様な主体と協働・連携を深め、
社会全体で子供へのサポートを強化していく



✓ DXの推進により、
新たな時代にふさわしい取組を展開する



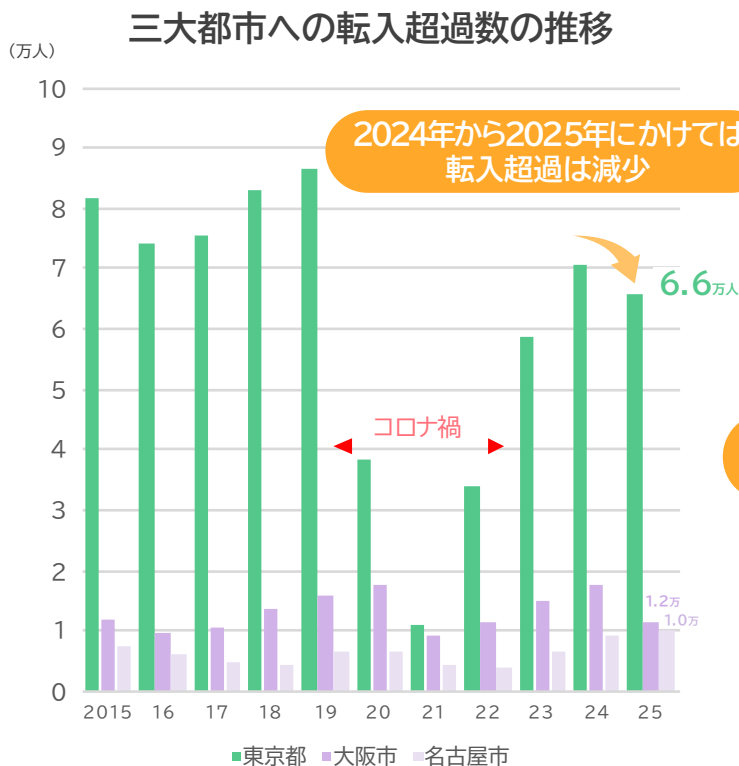
都の10年ぶりの出生数増加は特筆すべきこと

チルドレンファーストの
社会の実現に向けて

- ✓ 都の転出入の状況は、他の大都市と同様、過去10年一貫して転入超過
- ✓ 大幅に落ち込んでいた都内の日本人の婚姻数が、2024年に6.5%の増加に転じ、2025年も4.0%の増加と2年連続で大幅増加
2年連続での増加は19年ぶりのこと
- ✓ この間、減少してきた都内の日本人の出生数も、2025年は1.0%の増加。増加に転じるのは10年ぶり

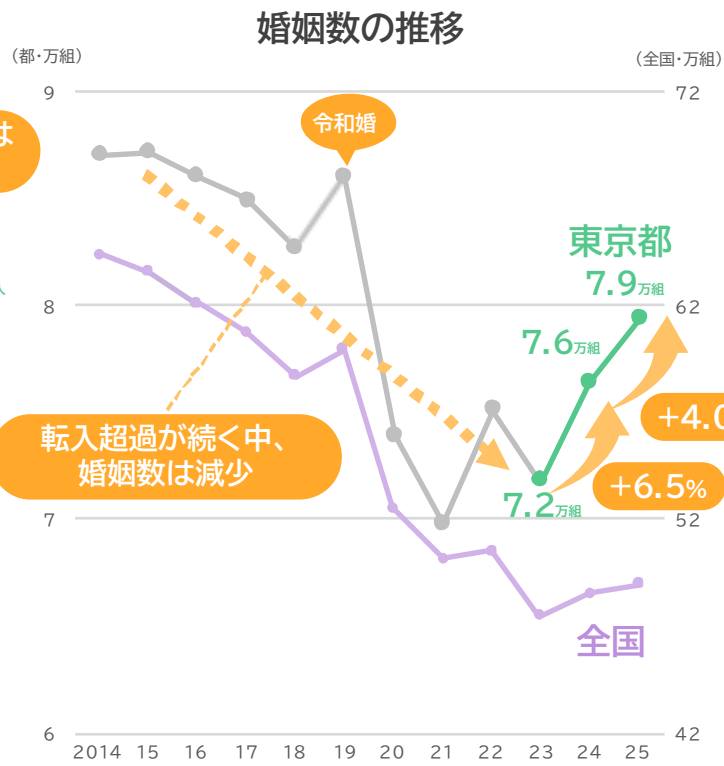
一貫して転入超過が続く中、減少が続いてきた出生数が10年ぶりに増加したことは、特筆すべきこと

他の大都市同様、一貫して転入超過



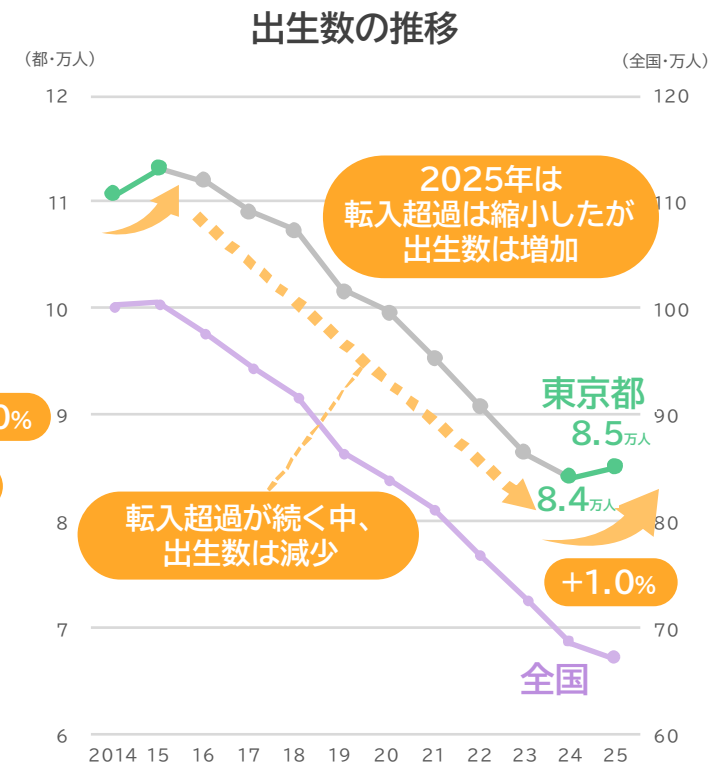
(資料)総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成 ※数値は日本人の移動者

大きく減少してきた婚姻数が19年ぶりに2年連続の増加



(資料)厚生労働省「人口動態調査」を基に作成 ※2025年については概数

この間、減少してきた出生数が10年ぶりに増加



(資料)厚生労働省「人口動態調査」を基に作成 ※2025年については概数

➤ 全ての家庭について、子供の年齢や親の所得にかかわらず保育料等の無償化を実施

【対象】認可保育所、認証保育所、私立幼稚園 等



	第1子	第2子		第3子以降	
	—	第1子が 就学前	第1子が 小学生以上	第1子が 就学前	第1子が 小学生以上
国制度	全額 保護者負担	保護者負担 1/2	全額 保護者負担	無償化	保護者負担 1/2
都制度	無償化				

※3歳以降の保育料等は、原則国制度により無償化

子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」

目的

従来の行政分野の枠組みにとらわれず、子供に関する実態や意識の変化を継続的に把握するため、2023年からこの調査を実施

調査結果のポイント（1）

東京の子供は「今の自分は幸せだ」について肯定的に評価している割合は高いが学年が上がるにつれて減少傾向。17歳の4人に1人は精神的健康状態が低い。



■ 主な調査結果：子供や保護者の意識

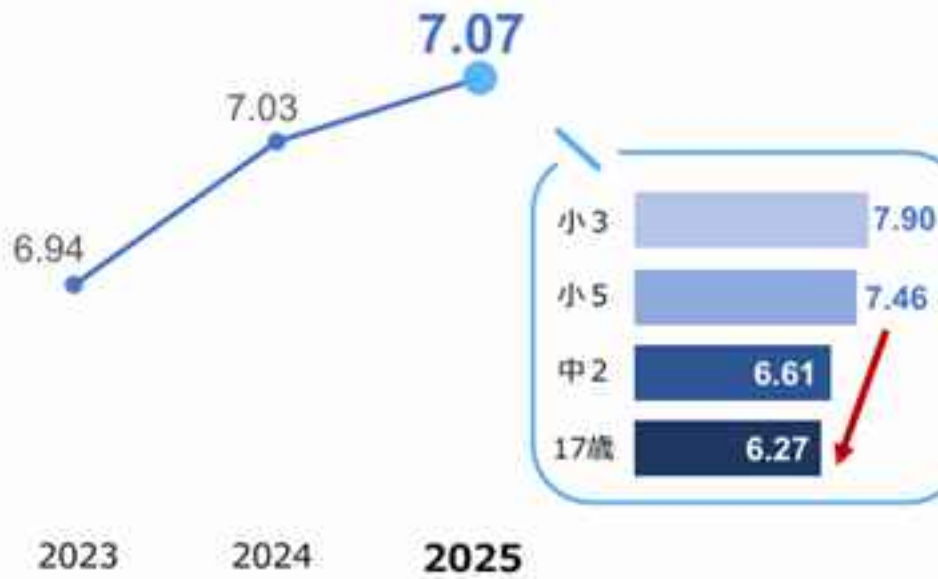
自己肯定感

「今の自分が好きだ」について、
子供全体の平均値は7.07。
学年が上がるにつれて、低下傾向。
(P.114)

全体

7.07

(0-10の11段階の平均値)



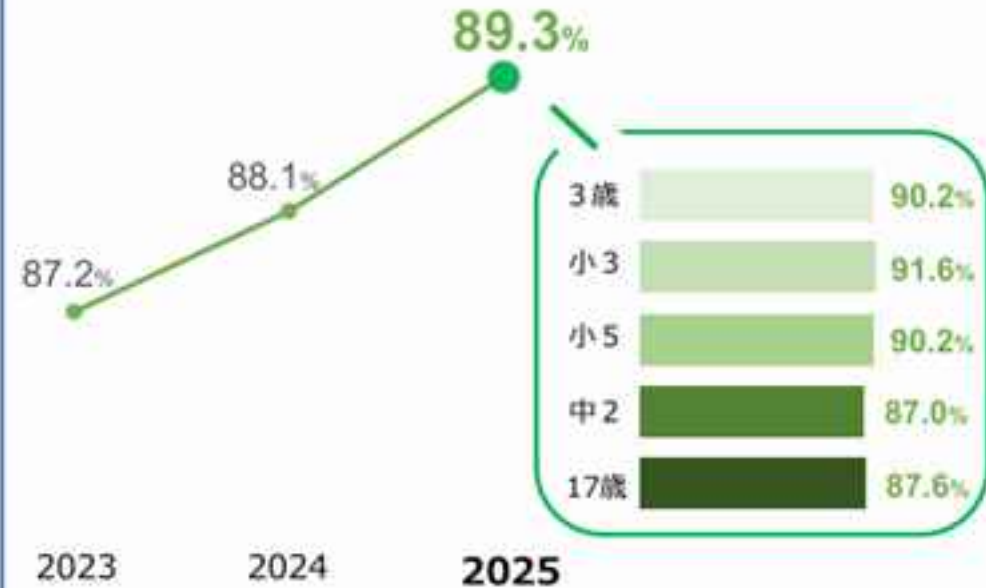
子育てに良い場所【保護者】

住む地域は子育てに良い場所だ
と思う（そう思う+どちらかといえばそう思う）保
護者は、いずれの学年でも約9割。
(P.374)

全体

89.3%

(そう思う+どちらかといえ
ばそう思うの割合)



子供とつながる情報プラットフォーム

子供たちの声を基に継続的にアップデート
東京都こどもホームページ



HPはこちら

一人1台端末と接続！
小学生にとっての「都政への玄関口」

2025
累計年間2億PV超^{見込み}
1日最大9万人訪問！



大ヒット！『東京こどもタイピングレース』

全ての子供の「もっと知りたい」をサポート

- “東京を楽しく学ぶ” AI日本語入門
 - ✓ 日常生活で活かせる会話練習
- 自由研究AI相談
 - ✓ 子供たちの自由研究の題材探しをサポート



2026年3月本格稼働 **Tokyo中高生Webサイト**



HPはこちら

東京都こどもホームページの中高生版を構築
中高生にとっての「都政への玄関口」

2025年12月ベータ版



AIを相手に英会話学習



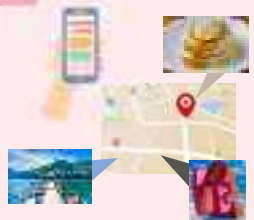
中高生による取材記事



悩みや不安の相談サービス

「東京の魅力」を学べる・楽しめる

- “Tokyo”をお題に、AIで英語学習
- 東京魅力マップを作成し
みんなで“Cool-Tokyo”（仮）を発信



東京都こども基本条例

子供政策の基本的な視点を一元的に規定



詳しくはこちら

子供をはじめ、全ての都民に
条例の基本理念を普及啓発

子供への普及啓発

- 子供が楽しく学べる機会や主体的に参画する機会を創出し、条例理解を促進
 - ✓ 小中学校等への出張型条例ワークショップ等



大人への普及啓発

- 東京都こども基本条例ハンドブックや解説動画を活用し、広報や研修等を展開
 - ✓ 地域自治会等が参加する会議での普及啓発等



都市間のネットワークを 生かした普及啓発

- 国内外の多様な主体との連携を通じ、条例理念の発信や意見交換等を行う場を創出
 - ✓ 東京こども政策国際会議 等



< 事業紹介 >

とうきょう すくわくプログラム



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

すくわく

知ってる？

幼稚園や保育園で
広がる取り組み



「とうきょう すくわくプログラム」 ってなに？



都独自

幼稚園や保育所などで、乳幼児の
伸びる・育つ（すくすく）× 好奇心・探究心（わくわく）
を応援する幼保共通のプログラム

「なんで？」
「どうして？」

興味
関心



豊かな
発想

「できるかな？」
「こうしてみよう！」



深い
思考

「できた！」
「今度はあれを
やってみようかな」



乳幼児期は、「非認知能力」を培う大切な時期

自己に関わる心の力

- ・自己肯定感
- ・意欲 ・粘り強さ

社会性に関わる心の力

- ・心の理解能力
- ・思いやり ・協同性

「すくわくプログラム」を通じて

すべての乳幼児の **心の育ちをサポート**

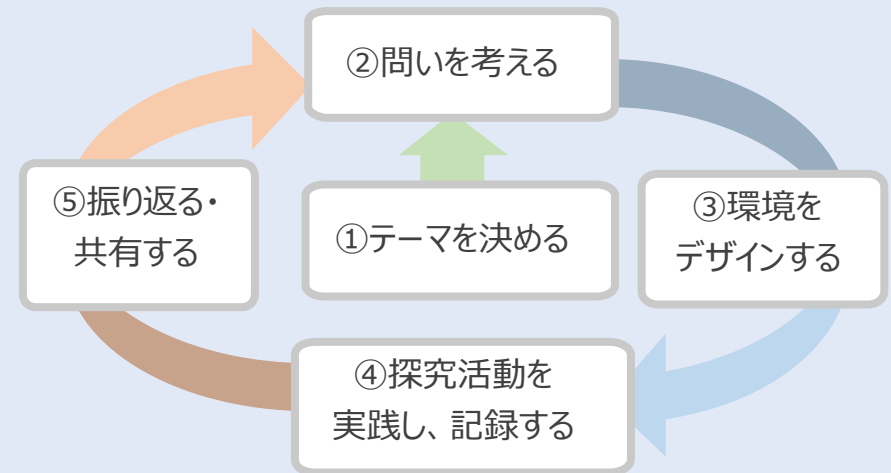
- 約**3,400**の幼稚園や保育所等で実践
- 島しょ部の一部を除く、**54**区市町村で実施（令和7年度）



各園の特徴や強みを活かしながら、
子供たちの興味・関心に応じて探究活動
を実践

「探究活動」の流れ

【前提】日頃の環境を通して見られる
子供の姿から興味・関心を探る



<テーマ例>

光

色

泥遊び

音

自然

絵本

プログラム実践の具体例（2025年度）

自然

✓ テーマを設定した理由

自然豊かな環境にあるなか、園として自然と環境教育を大切にしており、子供たちが、植物への興味や関心が強いため、「自然」をテーマとしました。

✓ 活動内容

- 園庭で育てている植物から、子供たちが好きなものを選び、手触りや匂いを確かめ、ルーペ等で拡大して見てみるなど、思い思いの方法で観察し、気づきを友達と共有する取組が行われました。



葉っぱを触ってみる

色と光

✓ テーマを設定した理由

通常保育の環境設定の中で、サイエンスコーナーを設定しました。その設定した環境で、色や光への興味関心があることを把握し、「色と光」をテーマとしました。

✓ 活動内容

- 赤、青、黄色の三原色の色水を用意し、色が混ざる様子を楽しみながら、子供たちが思い思いの色を自由に作る取組が行われました。
- ライトテーブル、OHP等、光を通して色を観察し、感じたことを友達と共有する取組が行われました。



思い思いの色づくり

プログラム実践の具体例（2025年度）

土粘土

✓ テーマを設定した理由

昨年度「触れる」をテーマに探究してきた子供たち。自然の一部からなる素材に存分に触れ、関わりを深めてほしいと考え、「土粘土」をテーマとしました。

✓ 活動内容

・土粘土の感触を手足や体で感じ、削る、細かくちぎる、丸める、壁につける、持ち上げる、積み上げるなど、**思い思いの方法で粘土に触れ、土粘土が持つ特性をじっくり味わう**取組が行われました。



細かくちぎってみる

音

✓ テーマを設定した理由

夏に部屋で過ごす時間が長いなか、**音を聴いて身体で表現することを楽しむ**など、**音に興味がある様子**が見られたため、「音」をテーマとしました。

✓ 活動内容

・保育室などで聞こえる音を探す活動を行い、**水が流れる音や段ボールをこすると聞こえる音**など、子供たちが、**みつけた音の様子を自分なりに言葉で表現し、友達と共有する取組**が行われました。



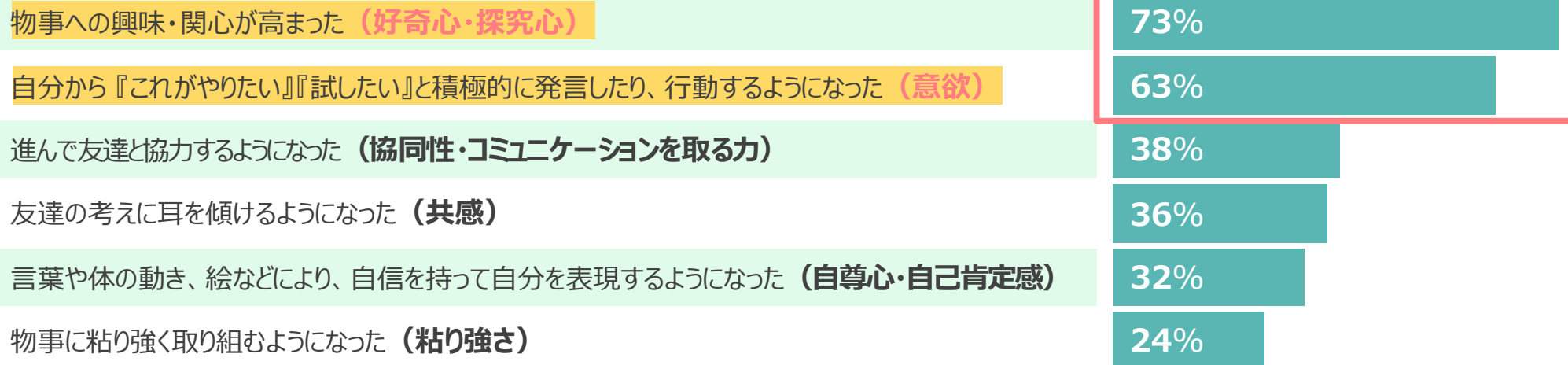
音をさがしてみる

◆ これまでの活動を振り返って（子供の変化）

※子供の変化や園の先生自身の変化を分析・検証するためアンケートを実施し、回答結果をまとめ（対象：2024年度実施園の先生）

園の先生から見て、「すくわくプログラム」の取組により、子供の好奇心・探究心や意欲が高まっている姿があった

探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか ※複数回答 対象：園の先生（n=1,586）

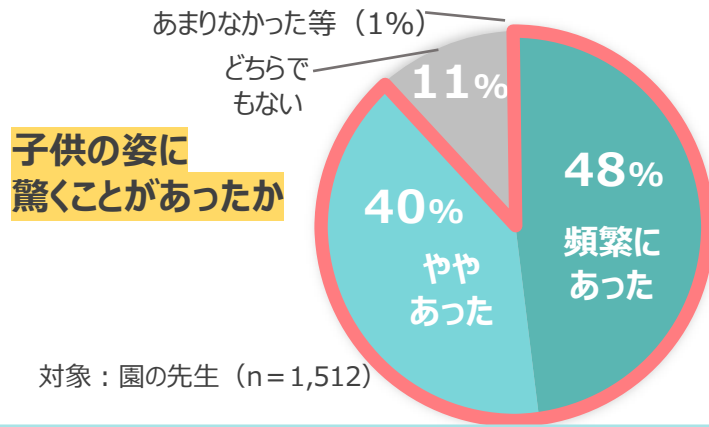


CEDEPのコメント

- ✓「物事への興味・関心が高まった」が最も高く、次いで「自分から『これがやりたい』『試したい』と積極的に発言したり、行動するようになった」であった。探究活動の経験を重ねたことが、日常の幼児教育・保育の中での子供の姿の変化につながることで実感されており、特に、好奇心や主体性といった側面を伸ばす可能性が示された。
- ✓また、「進んで友達と協力するようになった」、「友達の考えに耳を傾けるようになった」は4割近くに達しており、探究活動が協同性や他者の考えへの関心にもつながっている場合もあることが示唆される。このことは、保育者や友達と共に行う活動であることにより、個々の子供の好奇心や主体性を育むのみならず、協働して探究することの学びや育ちにもつながっている可能性を示唆している。

◆ これまでの活動を振り返って（子供の変化）

約9割の園の先生が、「すくわくプログラム」の取組の中で、子供の姿に驚くことがあった。



CEDEPのコメント

- ✓ 探究活動をやってみて、子供の姿に驚くことがあったかという質問に対して、驚くことがあったという回答は合計で9割近くに上っていた。
- ✓ 「驚く」ということは、これまでの実践ではあまり出会ったことのない姿に出会ったということであり、探究活動において子供たちが新たな姿を見せると共に、保育者の新たな発見や気づきにもつながっていることが示唆される。

エピソード（自由記述）：活動中の子供の姿への驚き

<子供の情緒的側面> 「子供の意欲、夢中さ、根気強さなど子供が活動の中で示す情緒的側面に驚きを感じた」というもの

子供の意欲	あまり意欲的に活動してこなかった幼児が自らやりたいと活動に参加していたことです。
子供の根気強さ	楽器をやりたいと思った子供は、難しい課題でも諦めず挑戦する姿があった。

<子供の表現> 「活動中での子供の表現に驚いた」という内容

子供の言葉の豊かさ	活動中の子供の発言が豊かになった。
他児への考えの伝達	発表の際に前に出た子の真似をして終わるかと思っただけで、子供によってそれぞれ少しずつ見本として見せたテンプレートから違っていき姿が見られたので、子供達なりに考えて一生懸命に伝えようとする姿がみられたこと。

<子供のアイデア> 「活動の中で子供が示すアイデアに驚いた」という内容

子供の工夫	自分なりの表現に注目することができ、子供をより知ることが出来た。また、繰り返し活動することで植物から色を作る時の工夫や慣れがあることがわかった。
子供同士の発見の共有	4歳児のひとりが、ボールを製作する際に円柱に風船を付ける自由な発想と、転がり方を他のボールと比較して他児と共に観察し、違いを発見したこと。

◆ これまでの活動を振り返って（子供の変化）

エピソード（自由記述）：子供の活動の拡張・発展への驚き

<日常生活とのつながり> 活動が日常生活とつながっていることへの驚き

日常生活での興味の継続	探究活動後も、散歩時や日常の保育の中で探究活動で行った事を思い出し、自然と自ら耳を傾けたり感じたりする姿を見る事があった。
日常生活での自信	意外な園児が逆上がりやなわとびがあつという間にできたり、どの子も自信がついたように感じる。保育園の行き渋りがなくなった。

<子供同士のつながり> 活動が子供同士のかかわりの中で発展したことに驚きを感じたという内容

子供同士のかかわりの中での発展	自分達で考えた遊びを、他児と一緒に発展しながら楽しむ姿が見られるようになった。
学年を超えた広がり	5歳児が取り組んだ事がいつのまにか3歳児にも広がっていたり、時に一緒に取り組んでいたりとお互いに良い刺激になっていました。

<家庭・地域とのつながり> 家庭での会話につながった、地域の人とのかかわりが増えたといった内容

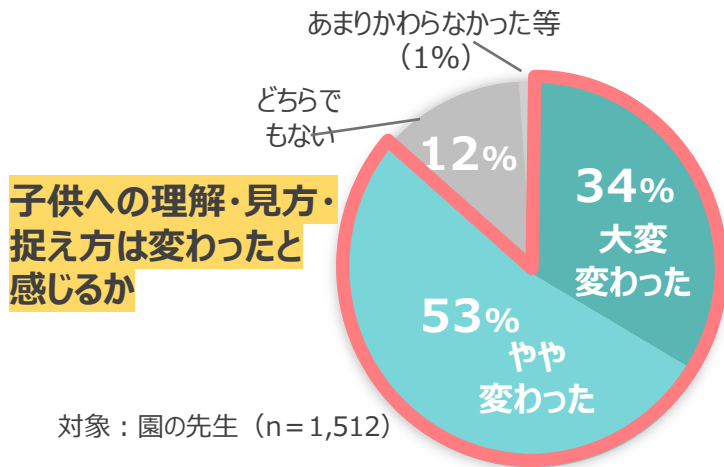
家庭とのつながり	子供同士での話し合いが増え保育者が入らなくても調べたり、考えたりしている姿が見られた。また家でも話をしているようで、家にある図鑑などを持って来るようになった。
地域の人とのかかわり	幼稚園を訪ねて来る人との関わりが増えた。

CEDEPのコメント

- ✓保育者が驚きを感じたとして挙げられた自由記述の内容から、探究活動の中で、子供たちがそれまでとは異なる意欲的で夢中な姿や、様々なアイデアや表現を豊かに示しており、保育者もそれに気づけたということが示唆された。
- ✓さらに、探究活動が、その場限りのことではなく、日常生活にもよい影響を与えたり、園内で学年を超えて波及したり、家庭や地域とのつながりを豊かにする場合もあることが示された。

◆ これまでの活動を振り返って（園の先生の変化）

約9割の園の先生が、日常の子供の行動や考えに、これまで以上に意識を向けるようになった。



子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じるか

どのように変わったか ※複数回答

対象：保育者 (n=1,316)

子供の発言や行動に意識が向くようになった

77%

子供が何を考えているか知ろうとするようになった

64%

子供が持つありのままの力や可能性に、より目が向くようになった

60%

子供との活動時間を楽しめるようになった

47%

子供一人ひとりのことをより知りたいと思うようになった

46%

CEDEPのコメント

- ✓「大変変わった」、「やや変わった」の合計が9割近くに上っていた。
- ✓保育者がこれまでの実践ではあまり出会ったことのない子供の姿に出会い、新たな発見や気づきを得たことが、子供への新たな理解・見方・捉え方につながった可能性が示唆される。

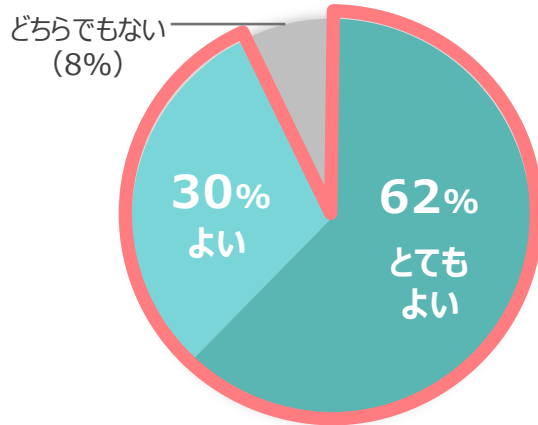
CEDEPのコメント

- ✓「子供の発言や行動に意識が向くようになった」の割合が最も高く、次いで、「子供が何を考えているか知ろうとするようになった」、「子供の持つありのままの力や可能性に、より目が向くようになった」が高い割合だった。
- ✓探究活動においては、子供の声に耳を傾け、子供の考えを広げ深めることを大事にしている。保育者が子供の発言や行動に意識を向け、子供の考えや、子供の持つ力や可能性に目を向けるようになったということは、事業の目的や内容の理解をもって探究活動が進められていることを示す結果だと考えられる。
- ✓保育者が子供の発言や行動、考えや可能性に目を向けるということは、子供の興味や好奇心を受けとめ、子供がもつ可能性を引き出したりすることに寄与するものと考えられる。そして、そのことは、非認知能力の育ちを支えるかかわりにつながる可能性があるだろう。

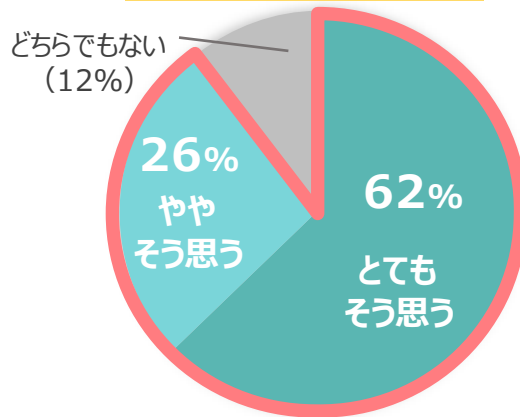
◆ これまでの活動を振り返って（保護者の声）

多くの保護者が、「すくわくプログラム」の取組を実施することに好意的である。

取組を実施していることについてどう思うか



取組を継続してほしいか



対象：保護者（n=4,932）

自由意見

● 好奇心・探究心 ●

- 色々な物事に**興味を持つ**ようになり、自分で調べ聞いたり、学んだことを教えてくれるようになった。
- 色々な事に関して「なんでこうなるのか？」を**自分なりに考える**機会が増えた。
- ものごとを**多面的に見る**ようになりました。

● 意欲 ●

- 園でも家でもよく手と頭を動かして**考える**ようになった。
- **集中力**が増した。アイデアや創作意欲が湧き、**自分から進んで挑戦**するようになった。
- 受け身で見ただけでなく、**自分でもやってみたいという挑戦心**が育っていると思う。
- 元々創作が好きだがより**意欲的**になった。
- 色々な事に**チャレンジしようとする姿勢**が見られるようになった
- 大人に答えを聞くだけでなく、自分なりに「こうなんじゃないかな」と**考えて意見する**ようになった気がします。

● 協同性、コミュニケーション ●

- **友達との交流機会**も増えて、**言葉や心の成長**が見られるようになりました。
- 自分の**考えや思うことを周りに伝える**ようになった。

● 共感 ●

- **人を思いやる心**が育ち、自分とは違う意見があっても**認め合う**傾向がある。

● その他 ●

- **表情が良い**。家庭においても、経験した遊びを取り込んで遊んでいます。
- すくわくをととても楽しみにしていて、**園へ喜んで登園**する。
- **保育園に行くのを楽しみにする**ようになった。
- **親子での会話**の幅が増えた。

すくわくナビゲーター園制度について

- 探究活動に取り組む園同士が学び合うことで、取組の質を更に高めることを目的に、令和7年度から開始

すくわくナビゲーター園は、実施園同士の学び合いのネットワークの中核となる園

園同士のネットワークを創出



<https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/navigator/>

**現在、106園がナビゲーター園として活動！
今年の夏頃に追加募集を予定**

ナビゲーター園の活動内容

- ① **見学受け入れ**
探究活動を実施する際、他の実施園からの見学を受け入れる。
- ② **探究活動の紹介**
探究活動の様子を、すくわくポータル及び自園のホームページ等の両方で発信する。
- ③ **助言の提供**
探究活動に関する他の実施園からの質問等に応じ、適宜助言する。

ナビゲーター園向けのサポート

- ① 都と連携し園の探究活動に携わっている様々な専門家に、オンライン形式で相談できる。
- ② すくわくプログラムの取組の質の向上につながる、CEDEP主催の研修に参加できる。
- ③ 専用サイト「すくわくポータル」でナビゲーター園のすくわくプログラムの取組を発信する。

ナビゲーター園の活動をレポート！

2026. 2



ナビゲーター園とは、どんな活動なのか…

お手本の活動？負担は？興味があるけれどよくわからない…

という先生方に、すでにナビゲーター園として活動している園の先生のお声をお届けいたします！

●A園●

応募したきっかけ

◆昨年度から**子供達の発達に良い**すくわく活動をと考え、**保育士主体**で取り組んできました。自園の実際の活動を、**是非多くの園に見てもらい、取組を伝えたい**と思い応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に**4園**の先生の見学受入をしました。準備等の**負担は特に感じず**、これまで**やってきたことを更に高める良い機会**でした。当日は「光と影」のテーマで複数クラスで取組みました。

◆他の職員もすくわくに前向きで、シフトを見て見学日をきめました。

やってみて

◆取組を見て頂き、逆に**アイデアをもらえて有難いし**、お褒めの言葉等はとてうれしかったです。

◆質問をもらうと、**新しい発見や視点を得られ**、さらにすくわくへの意欲が湧きました。やってよかったです。

見学の様子



●B園●

応募したきっかけ

◆子供の日常の「探究」を支え豊かに、と考えてきましたが、その様子を見て頂き**ご意見をいただけること**と、**情報交換が学びにもなる**と考え、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆子供のその時の興味関心によって、見学日の内容が変わることを**事前に伝えました**。

◆「植栽トンネルをもっと活用できないか？」と、どんな花が咲くかなど、**3園**の先生方が見学に来た日にコーナーを構成し、様々な年齢の子どもたちが取り組んでいるところを見てもらいました。

◆見学受入は月1回と決め、**可能な中で取り組んでいます**。

やってみて

◆一方的に伝えるのではなく、**活動や環境を見て頂いたうえで意見交換や悩みの共有**ができたことは**大きな学び**になり、**ありがたい機会**でした。

◆普段関わりの少ない、**幼保の園の先生同士で話し合えた**ことも素晴らしく、**やってよかったです**。

見学の様子



ナビゲーター園の活動をレポート！

2026. 2



ナビゲーター園とは、どんな活動なのか…

お手本の活動？負担は？興味があるけれどよくわからない…

という先生方に、すでにナビゲーター園として活動している園の先生のお声をお届けいたします！

●C園●

応募したきっかけ

◆手探りですくわくプログラムに取り組み始めましたが、同じように迷いながら進んでいる園がいたら、一緒に考えるお手伝いができるといいなと思い、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に、計3園5名の先生の見学受入をしました。4歳児の「虫」をテーマにした活動の日はナビゲーター園としての見学受入が初めてだったので、担任のほか副主任が入り、体制を工夫しましたが、特に苦労はなかったです。

◆見学日については、月案、週案と作成する中で、職員で相談して決めました。

やってみて

◆見学に来る方がいると学びになるし、能動的に見に行くこともできるのは、メリットだと思います。

◆他園の先生から、質問を受けたり振り返りをしたことはとても良い機会になりました。

見学の様子



●D園●

応募したきっかけ

◆昨年度からプログラムに取り組む中で、子供達が成長する姿を実感したので、ナビゲーター園となって、すくわく活動により一層深く取り組みたいと思い、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に、1園1名の先生の見学受入をしました。当日は、継続して取り組んできている4歳児の「光」をテーマにした室内の活動でした。

◆他園からの見学は初めてでしたが、都が日程調整等サポートしてくれたため、特に負担は感じず、事前に直接お電話を頂いていたので、当日はスムーズに迎えられました。

やってみて

◆他園の先生も、みんな試行錯誤の中取り組まれていることがよくわかりました。

◆正解かわからない中、一緒に頑張っている仲間が都内にたくさんいるということがわかったのは、励みになりました！

見学の様子



すくわくポータルについて

すくわくポータルは、保護者や幼稚園・保育所等に**具体的な活動内容や、実施園の状況等**を発信・共有するポータルサイトです。

※園の先生向けの関係者ページは、**ログインが必要**となります。

東京都の各所管局又は区市町村から園宛にお伝えしているIDとパスワードでログインしてください。



ログインせずにご覧いただけるコンテンツ・機能

● 動画

- ・プログラムの意義についての対談
- ・探究活動の流れの解説
- ・活動の様子（色・音・自然）



● 事例紹介資料

- 新 丸わかりブック
- 新 実施園の先生対談
- 新 ナビゲーター園の取組・すくわくプログラム



● 実践園検索

- ・所在地から
- ・施設の種類から（幼稚園や保育所など）
- ・テーマから（色、自然、音など）

● ロゴのダウンロード

- ・無料でダウンロード
- ・取組PRへ活用

園の先生向け（要ログイン）

● 実践に関する情報

- 新 ナビゲーター園見学情報等
- ・探究活動のヒント集
- ・研修会等動画
- ・PRチラシ（園の取組自由記載バージョン）

● 各種お知らせ

- ・研修会や報告会等、東京都からのお知らせ

● チャットボット

- ・頻度の高い質問に対応
- ・すくわくポータル内の回答掲載箇所にアクセス

● 補助金制度案内

- ・事業概要や補助要件、問い合わせ先など

※園の先生向けページは、幼稚園・保育所等を対象とした**限定公開**ですので**第三者への共有等はお控えください。**

◆ ロゴマークのご利用について



- ✓ 「とうきょう すくわくプログラム」に取り組む幼稚園・保育所等が、**自園の取組をホームページで発信する際などに、本ロゴマークをご利用いただけます。**
- ✓ ご利用に当たっては、**取扱要領及び利用マニュアルに沿ったご利用をお願いします。**

※特定の商品・サービス等の利益に寄与する場合等の商用利用はできません。

◆ PRチラシのご活用について



(表面) ※共通



(裏面①)



(裏面②)

- ✓ すくわくプログラムの概要をまとめたチラシです。
- ✓ 園の自由記載欄あり (裏面②) のチラシもあります。

◆ 探究活動のヒント集

各園から質問の多かった項目について、探究活動の実践に携わる専門家からのヒントとなるアドバイスを取りまとめ



No.	質問内容
1	乳児（0～2歳）の探究活動におけるテーマの決め方
2	園庭がない、スペースに限りがある園での探究活動
3	乳児（0～2歳）の探究活動における問いの考え方
4	子供への問いかけのポイント①
5	子供への問いかけのポイント②
6	環境をデザインする際のポイント
7	乳児（0～2歳）の探究活動における環境のデザイン

No.	質問内容
8	子供への言葉かけ
9	安全な活動のための工夫
10	探究活動の再構成
11	特別な支援や配慮を要する子供
12	振り返り・共有の方法
13	子供との振り返り
14	保護者への共有

◆ 令和8年度の事業展開について

今後のアクション

1 「とうきょう すくわくプログラム」の全域展開に向けた取組推進



プログラムの実践に係る経費を補助 **拡**
(とうきょう すくわくプログラム推進事業／子供政策連携室)

- 意欲ある全ての園で実践を行えるよう、実践に係る経費を補助し、園の取組を継続的に後押し
※補助経費例：備品購入費、人件費、研修費など

補助の新規採択は令和8年度が最終！



プログラムの全域展開におけるCEDEPとの連携 (とうきょう すくわくプログラム推進事業／子供政策連携室)

- CEDEPとの連携の下、プログラムの実践の中で見られた子供たちの変化等の分析・検証を積み重ねるとともに、幼稚園や保育所、認定こども園等における質の高いプログラムの実践を後押し

“CEDEP” (東京大学大学院 教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター) と協定締結 (2022年12月)

幼児教育・保育の振興に関する調査研究を推進するための、国内唯一の卓越した国際的研究拠点



【出典】 東京大学発達保育実践政策学センターHP

◆ 令和8年度の事業展開について

今後のアクション

② 「とうきょう すくわくプログラム」の更なる活動の質の向上に向けた取組を推進

プログラムの実践における更なる質の向上に向けた重層的な支援を実施（とうきょう すくわくプログラム推進事業／子供政策連携室） **拡**

- すくわくナビゲーター園は、他の実施園からの見学受入れ、他の実施園への取組紹介、助言等を行い、プログラムを実施する園同士の学び合いを促進
- 探究活動の更なるレベルアップを後押しする研修会・ワークショップ等を実施
- 地域内の実施園の探究活動の定着に向けて、区市町村との連携体制を構築し、研修会を開催

日常の幼児教育・保育での探究活動の実践の定着を見据え、更なる質の向上に向けた重層的な支援を実施

園同士のネットワークを創出



➤ ナビゲーター園制度



地域内の実施園の取組を支える環境整備



実践を多彩にサポート

➤ 実践的な研修会

➤ 実施園の活動事例

➤ 専門家のアドバイスをまとめたヒント集

➤ 体験型ワークショップ



すくわくワークショップ

参加園募集

概要 探究活動のさらなるレベルアップを目指す園を後押しするためのワークショップ

Point 1 探究活動の質向上

Point 2 実践事例の共有

Point 3 他園との交流

対象 令和7年度までに「とうきょう すくわくプログラム推進事業」に参加し、探究活動の質の向上を目指す都内の幼稚園・保育所等の先生方



専門家による講義



グループディスカッション



体験コンテンツ

日程

各回14:30-17:00

第5回はオンライン開催

第1回 ~~6月25日(木)~~

第2回 7月7日(火)

第3回 7月22日(水)

第4回 8月7日(金)

第5回 8月19日(水)

第6回 9月3日(木)

詳細はこちらの二次元コードまたは
チラシをご確認ください！



◆ 令和8年度の事業展開について

③ 「とうきょう すくわくプログラム」の効果的な広報展開

プログラムの認知度向上と理解促進に向けた広報展開（とうきょう すくわくプログラム推進事業／子供政策連携室） 拡

- ロゴの効果的な発信等により、プログラムの認知度を向上
- 乳幼児期における非認知能力育成の意義や、プログラムの具体的な活動内容等を分かりやすく示す動画を効果的に発信し、保護者等の理解を促進
- 事業の成果等の発信を通じて、子供の育ちに関わる方の理解を促進するとともに、幼児教育・保育の更なる充実につなげるため、シンポジウムを開催

✓多様な発信ツールを用いて、保護者、幼稚園・保育所等、区市町村等のあらゆるステークホルダーにリーチ



2026年度

新 シンポジウムを開催



成果の発信

- 子供の育ちに関わる方の理解促進
- 幼児教育・保育の更なる充実

◆ 外部委託の活用

Q1：委託事業により実施することも可能でしょうか？

本事業は、保育者が内容検討や探究活動に主体的に関わり知見を深めることが必要です。実施に当たり、例えば、活動へのサポートの位置付けで部分的に外部委託等により実施することは可能ですが、すべてを外部委託等で実施し、保育者が関わらない場合は、補助対象外となります。

Q2：委託事業により実施することを検討しており、事業者から活動内容の提案を受けていますが、留意点はありますか？

本事業は、保育者が内容検討や探究活動に主体的に関わり知見を深めることが必要です。実施に当たり、例えば、活動へのサポートの位置付けで部分的に外部委託等により実施することは可能ですが、すべてを外部委託等で実施し、保育者が関わらない場合は、補助対象外となります。

なお、外部委託による活動に際し、東京都が特定の教材やプログラム等を推奨することとはしていません。探究活動の検討の中でご不明な点がある場合は、東京都が発信する各種情報を参照頂くほか、問合せ先までお問合せください。

< 事業紹介 >

子供を事故から守る 環境づくり



事故が起きないように、
見守るだけでは限界

“変えられるもの” を
“変える” ことで 🐸
事故を予防できる



ウェブサイト・広報

事業の成果や事故予防の取組を戦略的に発信

データベース構築

事故データ・事例等のプラットフォームとして「子供の事故情報データベース」を運用



セーフティ・レビュー

エビデンス・ベースの予防策を開発

産官学民

収集したデータを分析
再現実験などを通して
子供の行動特性を解明

「変えられるもの」
を「変える」
の視点で、
事故予防のサイクル
を回していく

エビデンス・ベースの予防策を発信

詳しくはこちら



「防げる事故」を確実に防ぐ



◆ 誤飲・誤嚥による事故を予防

提言 1 収納場所の高さに加え、施錠等の工夫をする

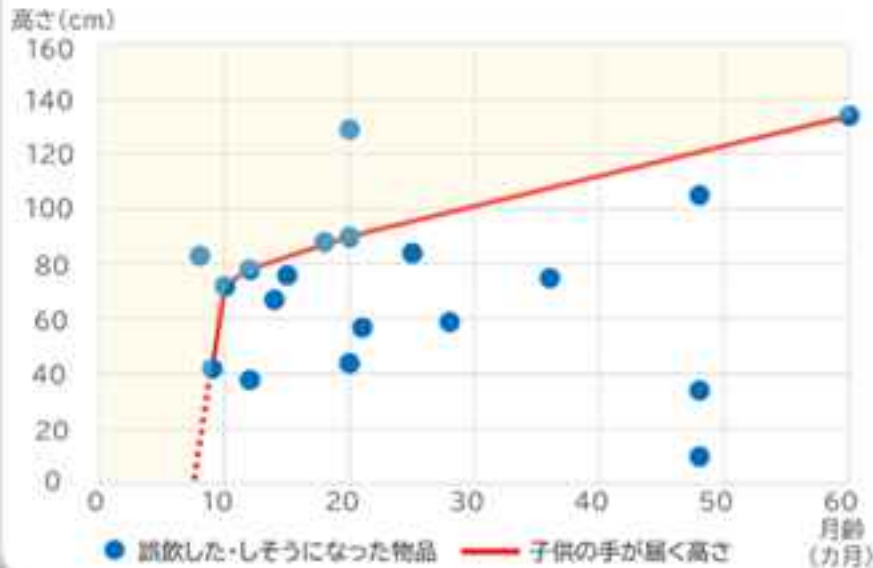
エビデンス

130cmの高さに保管していても事故が起きる

- 訪問調査の結果、**子供の手が届かない高さ**[※]に保管していたにもかかわらず、ヒヤリ・ハットや事故につながっていることが判明

※ 1歳8か月の子供が踏み台を使って129cmの高さに到達

誤飲した・しそようになった物品の高さと子供の年齢



目安：0～6歳（小学校入学前まで）

事故予防策

収納場所の高さに加え、施錠等の工夫をする

- 子供は、足場になるものを用意し手を伸ばすため、高所に保管するだけでは事故を防ぐことはできない
- 子供に触れてほしくない物は、鍵のかかる場所や、ベビーゲートの先など子供が入れない場所に保管することが重要

具体的な予防策（例）

医薬品や洗浄剤等の保管には、鍵付きの箱やベビーゲートを活用する



◆ 誤飲・誤嚥による事故を予防

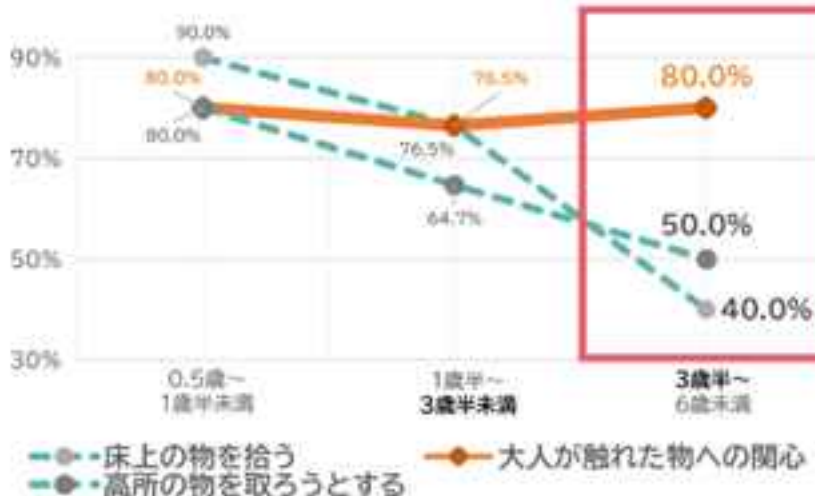
提言 2 口に入れると危険な物は、使った後に放置しない

エビデンス

3歳半以降、床の物を拾う等の行動は減るが、**大人が触れた物への関心は高いままである**

- 乳幼児がいる家庭を訪問し、誤飲につながる子供の行動について聞き取りを実施
- 床の上や高い場所の物を探索する様子は3歳前後を境に減少する一方で、**大人が触れた物に対する興味関心は3歳半以降も高いことが判明**

年齢区分別の子供の行動特性



目安：0～6歳（小学校入学前まで）

事故予防策

口に入れると危険な物は、使った後に放置しない

- 3歳を過ぎても、**保護者や兄弟などが触れた物に興味を持ち、口に入れてしまう危険性がある**
- たばこや洗剤など、子供が使用しないものについても**出しっ放しにせず、適切に管理することが大切**

具体的な予防策（例）

洗濯用洗剤は使うときだけ取り出し、使用後は施錠できる棚等に片付ける



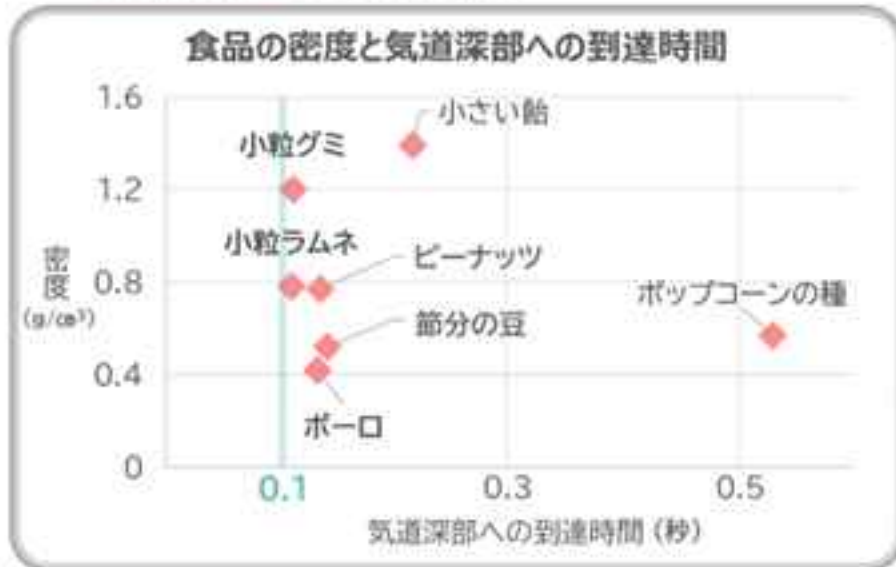
◆ 誤飲・誤嚥による事故を予防

提言 3 落ち着いてゆっくり噛みながら食事をさせる

エビデンス

誤えんしやすい食品は**0.1秒**で気管に詰まる

- 子供が空気を吸い込む力や、食品が気管の奥に到達するまでの時間を計測し、誤えんにつながる危険性を食品別に分析
- 小粒ラムネや節分の豆などの小さく軽い食品は、気管に入り込みやすく、最短約**0.1秒**で気道深部に到達することが判明



10

目安：1～5歳

事故予防策

落ち着いてゆっくり噛みながら食事をさせる

- 泣く・笑う等によって瞬間的に吸い込む力が高まると食品が一瞬で気管に入り込むため、誤えんする前に気づくことは困難
- 立ち歩かず、よく噛んで、落ち着いて食事をし、状況に応じて中断することも必要

具体的な予防策（例）

食事やおやつは座って食べるようにし、泣き出した場合などは食事を中断する



11

◆ 誤飲・誤嚥による事故を予防

提言 4 子供が開けにくい仕組みを備えた製品を活用する

エビデンス

CR包装[※]は、誤飲につながる幼児の行動を約9割防止する

- CR機能を備えたピルケース等を子供が開けようとする様子を観察し、**開封に要する時間を計測**
- 5歳前後から開封率が高まるが、全体では**約9割**の子供が**開けることができなかった**

C R機能付きピルケース・個包装の開封率



※ 5歳未満：月齢47～56ヶ月の子供、5歳以上：月齢71～82ヶ月の子供

目安：0～6歳（小学校入学前まで）

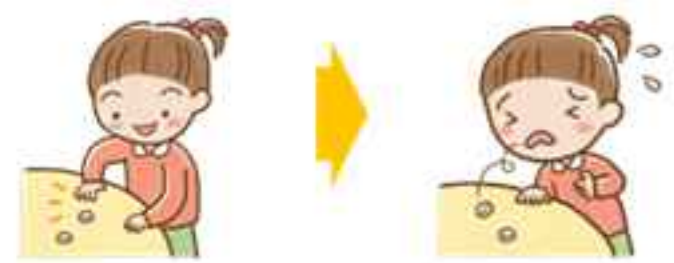
事故予防策

子供が開けにくい仕組みを備えた製品を活用する

- CR機能を備えた**容器**を使用することで、誤飲につながる子供の行動を抑制することができる
- ボタン型電池や医薬品など、飲み込むと重症化しやすい物は、**子供では取り出しにくいパッケージの製品等**を活用することが大切

具体的な予防策（例）

パッケージに誤飲防止機能が付いた製品や、表面に苦み成分が塗布されたボタン型電池を選ぶ



※ チャイルドレジスタンスパッケージ (Child-Resistant Packaging) と呼んで、小児が容易に開封できない構造を採用することで、誤飲等の事故を劇く安全対策する包装のこと

子供の事故情報データベースを構築

[詳しくはこちら](#)



子供の事故情報を一元的に蓄積し、産官学民で利活用可能なオープンデータベースを構築(2024年度公開)

東京都
子供の事故情報データベース

文字サイズ: [A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [J](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [O](#) [P](#) [Q](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Y](#) [Z](#) [数字](#) [記号](#) [モトマップ](#) [Language](#)

[目次へ戻る](#) [お問い合わせ](#) [お問い合わせフォームへ](#)

子供の事故情報データベースとは？

子供の事故に関する情報・Webニュース・研究論文等を検索・閲覧できるデータベースです。
産官学民の様々な方にご活用いただくことで、「防げる事故」を確実に防止、
子供が安心してチャレンジできる社会の実現を目指します。

- 事故情報を見る**
グラフや図表を閲覧し、
事故の傾向や発生場所などを
確認することができます。
- 事故情報を探す**
事故の種類や発生場所、
年代・性別などによって
検索できます。
- ニュース・論文を探す**
ニュースや論文を
キーワードなどで
検索できます。
- 情報ライブラリ**
事故に関する資料やデータ
のダウンロードができます。

子供の事故情報データベース



データベースをバージョンアップし、利便性を向上！

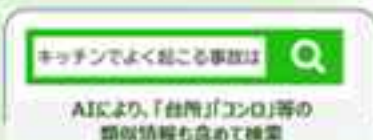
「事故情報を探す」へのAI機能の追加



○ 自然言語検索機能

- AIが文意・文脈を判断するため、話し言葉での検索が可能

<検索イメージ>



AIにより、「台所」「コンロ」等の類似情報も含めて検索

○ 関連度の高い情報の表示機能

- 事故の種類や発生状況、性別・年齢等から情報の関連度をAIが判定し表示



情報ライブラリの新設

○ 事例集等の資料や統計データ、動画の検索機能

- ヒヤリ・ハット事例集や交通事故統計等の検索・ダウンロード機能を新設
- 事例集等にはAIによる要約情報を付与
- データベースを製品開発や研究等に活用する事業者・研究者等に向け、子供の行動特性を記録した動画を公開

データベースの普及啓発に取り組んでいます！

- 子供向け製品の開発に携わる方などを対象とした啓発用デザインを作成し、ウェブサイトやSNS等で広報を展開
- このほか、事故予防に携わる研究者や医療従事者、ものづくり企業等が集まる学会やセミナーの場での紹介など、様々な機会を捉え、情報を発信しています



スタートアップと協働し、データベースの利活用を推進

- 都内スタートアップと共に、データベースに掲載している事故情報を活用したサービスの開発
- 保護者等が、Webブラウザ上で子供のアバターを操作しながら乳幼児の視力や視界等を体感することで、大人では気づきにくい、生活の中に潜む事故の危険を探索しながら楽しく学べるサービスを目指しています

子供の目線で危険をハント
「事故予防体験シミュレーター」



東京都こどもセーフティプロジェクトにおける広報

こどもセーフティプロジェクト 防げる事故を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を目指し、事故予防の啓発に取り組んでいます！

プロジェクトの専用サイトに加え、SNSや都内の駅構内等での発信により、重層的に広報を展開

SNS等での情報発信

日常生活に潜む子供の“あぶない！”を分かりやすく発信



駅構内での啓発

昨年度制作したポスターデザインを引き続き使用し、多くの人の目に触れる場所に掲示



<新宿駅での運貼りポスター>



<都営地下鉄駅での掲示>

各局等と連携し、時宜を捉えたタイムリーな情報発信を実施

5月10日



ベランダ等からの転落事故が多い時期に、生活文化局の注意喚起動画を活用し、分かりやすく予防策を発信

5月～9月

今年の夏も
沸とう京



環境局等と連携し、「今年の夏も沸とう京 “熱中症”から命を守る行動を！」のメッセージとともに、熱中症予防の普及啓発を実施

11月



ウェブサイトにも掲載記事も公開



こども家庭庁の乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間に合わせ、睡眠中の子供の事故に関する予防策等を発信

SNSでの反応や、いただいたお問合せ等



日常に潜む子供視点の“危険”が直感的に伝わり、ハッとさせられた

ポスター画像や動画を駅内のスクリーンに映すなど、事故予防の啓発に活用したい



事故予防に関する研修で、子供の事故予防ハンドブックを使わせてほしい



※ SNSの投稿や実際にいただいた声に基づいて記載





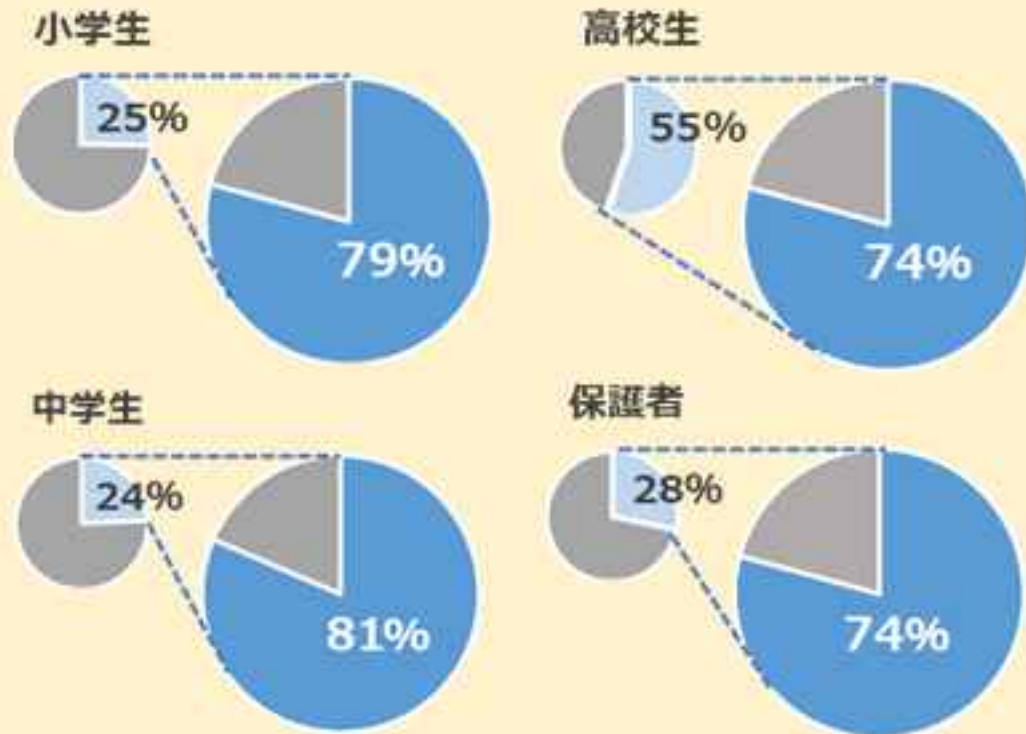
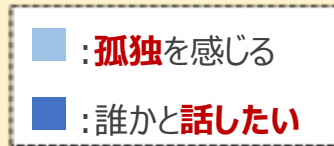
< 事業紹介 >

子供・子育てメンター “ギュッとチャット”



「あのね…」で始まる相談チャット

< 孤独や孤立を「感じる」と答えた人のうち、
「誰かと話がしたい」人の割合 >



子育て家庭だけでなく、
子供本人も、
孤独や孤立を感じ、
他者とのつながりを
求めている

※東京都子供政策連携室によるアンケート調査を基に作成
(調査対象 都内在住の子供(小、中、高)と保護者(未就学、小、中、高)の約3,200人)

子供や子育て家庭の

不安や悩みの深刻化を予防

相談無料!

「あのね…」で始まる相談チャット



ギュッとチャット

スタート!

チャットを活用して気軽に相談

子供や子育て家庭が日頃感じている**漠然としたモヤモヤ**を**一緒に整理**



<相談イメージ>



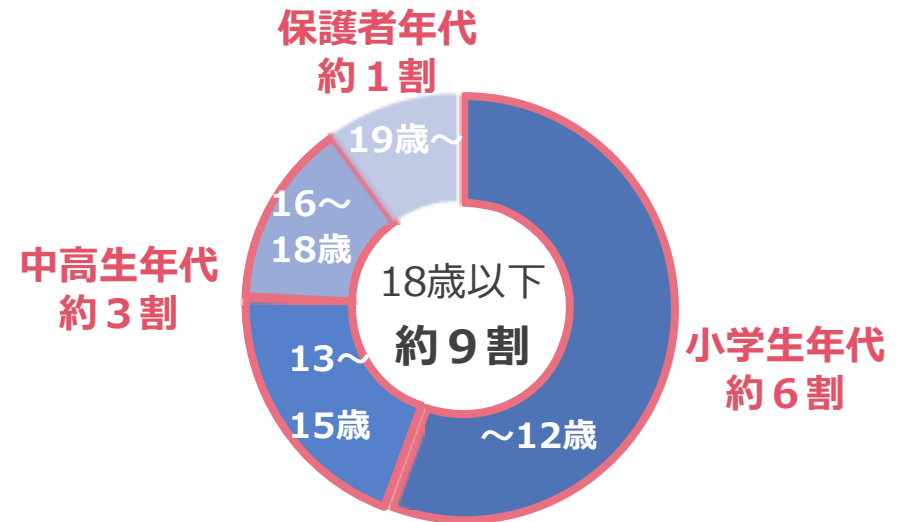
- 2025年1月の運用開始以降、着実に利用者は増加し、10月の本稼働以降、相談件数は約**2.5倍**に拡大
- 子供の利用者割合が高く、約**9割**（特に小学生年代が多く、約**6割**）
- 「ギョツとチャット」における子供や保護者からの相談内容は**学校生活、人間関係、家庭環境、子育て**など多岐にわたる

相談件数の推移

(累計16,435件)



年齢層 (令和7年1月～令和8年4月累計)



相談内容 上位3項目

	小学生年代	中高生年代	保護者
1位	学校生活 (26.0%)	心身の健康 (16.1%)	子育て (48.7%)
2位	家庭環境 (14.4%)	学校生活 (14.3%)	家庭環境 (13.1%)
3位	人間関係(12.8%)	雑談 (13.0%)	恋愛(8.4%)

(令和7年1月～令和8年4月累計)

これまでのアクション 子供・子育てメンター“ギュッとチャット”

子供の意見反映の取組

① 相談相手“ギュッと”の紹介



どの職種のギュッとにも相談したらよいか分からない

フローチャートなどで、相談相手が分かると良い

※実際の発言を基に記載

② 興味喚起を目的としたコンテンツ



どういった悩みを相談していいのかわかると相談しやすい

人に相談するのは恥ずかしい

※実際の発言を基に記載

✓ 多様な相談相手からおすすめの相手を紹介



本稼働から新機能追加「AILコメント」



相談テーマからギュッとをおすすめ

◀ パンフレットではフローチャートでギュッとをおすすめ

中高生向け漫画でギュッと職業紹介 ▼



✓ 相談することへのハードルを下げるようなコンテンツを複数制作



インフルエンサー
希空 (のあ)
高校3年生 (18歳)

◀ 実際の悩みをフォロワーから募集、「ギュッとチャット」でチャット相談



対象者別の相談事例を動画やウェブサイトで紹介 ▼



◀ Instagramアカウントを開設し、ギュッぴいの活動紹介

こども画面に切り替え Language▼

東京都  ギュッとチャット  

モヤモヤを匿名で
気軽に相談してみませんか 

こども・子育て家庭の相談チャット
相談時間：15時から24時まで(土日祝日も同じ)

 **いますぐ相談する**
受付時間 15:00~23:30
※会員登録なしで利用できます

 **予約して相談する**
予約は24時間できます
※予約するためには会員登録が必要です

 **AIチャットで相談する**
利用時間 15:00~23:30
※生成AIではありません。
※AIチャットに相談した内容をギュッとものが確認することは原則としてありません。

 **ギュッぴいにつぶやく**
利用時間 15:00~23:30
※あなたの気持ちや考えをお話ししていただくとテキストに変換します。感情を読み取りギュッぴいのアニメが変化します。

👉スマートフォン用トップページ



マスコットキャラクター

ギュッぴい



ご清聴 ありがとうございます

